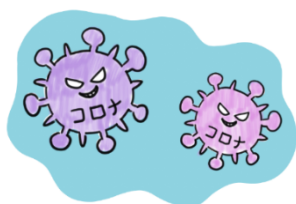




『コロナ禍をプラスに』

浮間中央病院へ入職し、約2年間回復期でのリハビリを経験しました。
その後、当施設へ移動し維持期リハビリに携わるようになり、現在1年半が経過しました。

回復期リハビリでは、急性期から引き継ぎ、医療面を含めたリスク管理をしつつ、身体機能を上げるリハビリを集中的に行います。一方、維持期リハビリでは、急性期～回復期での身体機能向上を目標としたリハビリから、ご利用様が再び在宅で生活ができるまでその人の生活機能を維持できるようリハビリを行います。言い換えれば、回復期が医療的リハビリであるのに対し、維持期は生活リハビリであり、在宅復帰に向け必要なことは何かを明確にしたリハビリを行います。また、ご高齢者様のリハビリは、加齢により進行する老化にも対応しなければならない為、予防の為のリハビリも行います。



当施設では、これまでご入所者様のリハビリは、1階の機能訓練室で行っていましたが、感染対策の一環で2月より入所フロアでリハビリをするようになりました。機能訓練室でセラピストのもとでは立てたり歩けても、入所フロアのスタッフにはその能力を確認できる機会がありませんでした。また、入所フロアでのご利用者様の普段の生活をセラピストが知れる機会が少ない状況でした。しかし、入所フロアでリハビリをするようになり、フロアのスタッフはリハビリでのご利用者様の様子を見ることができ、またセラピストもフロアでのご利用者様の様子を見られる時間が増えました。また、セラピストがフロアにいるようになったことで職種間の距離も近づき、情報を共有しやすい環境になったように感じます。

コロナ禍によるイレギュラーな状況をきっかけに、今月から個別リハビリに加え、集団リハビリを取り入れ始めました。集団リハビリでは、個別リハビリでは得られない効果があります。リハビリの時間を共有することで、ご高齢者様の”孤立化””孤独感”の解消や精神機能賦活に効果が期待できます。

今年に入り、突如現れた新型コロナウイルス。このように、新しい生活様式によりプラスに働いている点もあります。過去に例が無く先の見えない不安な状況が続いていますが、この状況を少しでもプラスにしていければと思います！

